



2月の花：梅

# 事務所便り

令和3年2月号

特定社会保険労務士・行政書士 重村 勝弘  
 重村行政労務管理事務所  
 ご連絡先：〒235-0021  
 ：横浜市磯子区岡村 7-8-15-102  
 電話・FAX：045-754-3412 携帯：070-5542-1466  
 E-mail：[shigemura.office@etude.ocn.ne.jp](mailto:shigemura.office@etude.ocn.ne.jp)

## ●バイデン新政権に世界の期待は 政策や課題は

新型コロナウイルスの感染拡大やアメリカ社会の分断など多くの難しい問題に直面するなか、どのような将来像を示すのかに大きな関心が集まっている。

女性として初めて副大統領にハリス氏や、財務長官にイエレン氏を起用するなど、24の閣僚レベルのポストのうち、半分にあたる12のポストで女性を起用。国務長官にはブリンケン元国務副長官、国家情報長官にはヘインズ元CIA副長官、さらに農務長官にはオバマ政権で同じポストを務めたビルサック氏を指名。ホワイトハウスの高官人事でも大統領補佐官にサリバン元副大統領補佐官、気候変動の問題を担当する新設の大統領特使にケリー元国務長官を起用。一方で、新政権の閣僚や高官の多くがオバマ政権時代の要職経験者であり、バイデン氏自身も副大統領だったことから「オバマ政権の3期目」だとやゆする声も。バイデン新政権の政策や課題は外交・内政ともに山積みである。選挙で明らかになった民主、共和のはじめ国内の分断



副大統領  
カマラ・ハリス氏



財務長官  
ジャネット・イエレン氏



国防長官  
ロイド・オースティン氏



内務長官  
デブラ・ハーランド氏



運輸長官  
ビート・プティジェッジ氏



国務長官  
アントニー・ブリンケン氏



国家情報長官  
アプリル・ヘインズ氏



農務長官  
トム・ビルサック氏



大統領補佐官  
ジェイク・サリバン氏



気候変動の問題を担当する  
新設の大統領特使  
ジョン・ケリー氏

を克服して民主主義国家のリーダーとして復帰できるか、米中関係の展開は、世界が注目している。

## 経済・貿易

NHK

### 【アメリカ経済の回復】

- 200兆円規模の追加の経済対策案の実現

### 【環境政策】

- 気候変動対策の推進に4年間で200兆円規模の投資  
新たな雇用を創出

### 【貿易政策】

- 日本やヨーロッパ諸国といった民主主義国家で連携
- 中国への関税上乘せは「すぐに動かすつもりはない」
- 海外で生産された製品に追加の税を課す  
「メイド・イン・アメリカ税制」の導入

## 外交・安全保障

NHK

### 【気候変動】

- パリ協定に復帰し、取り組みを強化

### 【対中国】

- 香港、ウイグルなどの人権問題に厳しく対応
- 軍事、安全保障の分野では日本などの同盟国や友好国との連携強化
- 地球規模の課題では協力を模索

### 【対イラン】

- トランプ政権が離脱した核合意に復帰

### 【対北朝鮮】

- バイデン氏みずから直接交渉はせず、安全保障チームのもとで非核化に向けた取り組みを再構築
- 日本などの同盟国との連携強化
- 中国に北朝鮮制裁の確実な実施を強く求める

## 内政

NHK

### 【新型コロナウイルス対策】

- 政府が管理する施設などでのマスクの着用の義務化
- ワクチン製造を加速させ、  
就任後100日間で1億回分を接種できるようにする方針

### 【課題は】

- アメリカ社会の分断の解消
- 連邦議会で民主党と共和党との隔たりは大きく、  
公約の気候変動対策や医療保険制度改革などについて  
議会で協力を得られるか
- 民主党内での、左派と中道派の立場の違い

## ●バイデン新大統領の就任式と国歌

1月20日、ワシントンDCで25000人の州兵に守られて、バイデン新大統領の就任式が行われた。

いつもの華やかな就任式と変わって寂しい式典であったが、唯一盛り上げたのがレディ・ガガの国歌斉唱であった。下記のユウチューブを参照。

<https://www.youtube.com/watch?v=lnSVSLvltpc>

アメリカ国歌『星条旗』(The Star-Spangled Banner/スター・スパングルド・バナー)の歌詞は、1812年に勃発した米英戦争における史実が元になっている。

米英戦争において優勢にあったイギリス軍は、首都ワシントン D.C.を陥落させ、さらにイギリス海軍がアメリカ・ボルティモア港のマクヘンリー砦を包囲していた。

砲撃が止んだのは1814年9月14日の朝のことだった。25時間にも及ぶ1,500発以上の砲弾にも関わらず、マクヘンリー砦の上には、星15個、縞15本が表わされた特大サイズのアメリカの国旗・星条旗が翻っていた。(上図の右上の星条旗)



この星条旗を目にした弁護士のスミス・スコット・キーは大変感銘を受け、集中砲火を耐え抜いた国旗を讃える詩「マクヘンリー砦の防衛 The Defence of Fort McHenry」を直ちに書き上げた。

この詩は後に流行歌「天国のアナクレオンへ」のメロディに合わせて歌われるようになり、1931年3月3日にアメリカ国歌として法制化された。

メリーランド州、ボルチモア港の入り口を制するこのマクヘンリー砦にある記念館を2002年に訪ねた。記念館には英国軍の25時間に及ぶ熾烈な砲撃を耐えた守備隊の戦闘状況の20分間の映画が上映され、最後に米国国歌が流れた。修学旅行者とみられる訪問者は一斉に起立し国歌を斉唱する。米国は幾多の困難に遭遇しても、国歌にうたわれている民族統合の精神のもとに切り抜けてきた。前大統領のもとで加速した国内の分断を乗り越え、民主主義陣営のリーダーとして力強く再起することに期待したい。



## ●防衛省、ミサイル探知の手法研究 複数衛星で横方向から観測—中朝に対応

防衛省は、中国やロシアの最新鋭ミサイルに対応する新たな手法の調査・研究に乗り出す。同一軌道上に複数の人工衛星を展開し、遠くを飛んでいるミサイルを横方向から探知する「リム観測」と呼ばれる手法。今後、実用化の可能性を探る。



中朝と北朝鮮は、高い軌道を描く弾道ミサイルとは別に、低高度を高速で滑空する新型ミサイル開発を進めている。地上のレーダーでは水平線などに阻まれて探知・追尾が難しく、人工衛星による宇宙からの観測が効果的とされる。

米国は対抗策として、多数の小型衛星を低高度の軌道上に張り巡らせて警戒に当たる「衛星星座(星座)」計画を推進。1000基以上の配備で切れ目ない警戒網の実現を目指しており、防衛省も参加を検討している。

リム観測も複数の衛星を用いる点は米計画と同じ。ただ、米計画の衛星がミサイルを真下に見下ろす形になるのに対し、リム観測は遠距離から横方向にレンズを向けるため、衛星1基当たりの観測範囲が広くなり、少ない基数での運用も期待できる。

このミサイル監視の衛星システムの調査研究を「22 円」で 三菱電機、が驚きの低価格で受注した。

## ●台湾駐米代表が正式出席 大統領就任式、断交後初

台湾の台北駐米経済文化代表処(駐米代表部に相当)の蕭美琴代表は20日、バイデン米大統領の就任式に出席した。台湾メディアによると、正式な招待を受けての出席は米台が断交した1979年以来初めて。米國務長官に指名されたブリンケン氏は19日に対中強硬政策を維持する考えを表明。台湾外交部(外務省)はブリンケン氏がこの中で「台湾が国際社会でより重要な役割を果たすことを望んでいる」と述べ、バイデン政権として台湾支持を継続していく方針を明確にしたとして、謝意を表明した。

これらの動きからバイデン新政権は中国に対し  
厳しい政策を継続することを明確にした。